

「戦時徴用船遭難の記録画典」開催のご案内

このたび財団法人日本殉職船員顕彰会（会長相浦紀一郎・商船三井最高顧問）より、別添のパンフレットの通り来る8月19日から24日の6日間、愛媛県美術館県民ギャラリーで「戦時徴用船遭難の記録画展」を開催する旨、来報ありましたのでご案内致します。

平成20年7月18日
全国海運組合連合会



全国海運組合連合会 御中

平成20年7月17日

財団法人 日本殉職船員顕彰会



謹啓 時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

当会は、太平洋戦争で戦死した6万余人の戦没船員の慰霊・顕彰を行うために海運・水産関係者によって設立された公益法人であります。

さて、当会では、平成20年8月19日(火)から24日(日)までの6日間、愛媛県美術館県民ギャラリーで「戦時徴用船遭難の記録画展」を開催いたします。当会と催しの内容につきましては、同封の資料をご参照ください。

ご高承のとおり、先の太平洋戦争は、西太平洋全域に戦線が拡大され、兵站の輸送や占領地域からの資源輸送のためには船舶による海上輸送なしには戦えなかった、世界戦史に例を見ない「海洋作戦」が中心の戦争でありました。そのために、商船はもとより漁船や機帆船などあらゆる船舶が軍に徴用され、米軍(連合軍)による徹底した海上輸送路の壊滅作戦の前に7,000隻を超える船舶の喪失と陸海軍人の損耗率をはるかに上回る6万余人の船員の犠牲者を出しました。この中には愛媛県出身者2,311人が戦没船員名簿にとどめられております。

今回開催する記録画展の絵画は、海上輸送に従事した船員や船舶の悲惨な実相を伝える写真・映像が少ない中で貴重な作品です。

この記録画展はこれまで全国各地で開催してまいりましたが、その目的は、船員が海上輸送に従事し、軍人に勝るとも劣らない活躍の中で犠牲となった功績を、広く国民に伝え、二度と戦争のない平和な海を実現することにあります。

さらにもう一つの目的は、ご遺族および戦没船員と生死をともにしたOB船員への慰霊事業等の周知であります。昭和46年、関係者によって神奈川県観音崎に「戦没船員の碑」が建立され、毎年追悼式を行っておりますが、残念ながら多くのご遺族等に周知が行き渡らずに今日に至っております。この記録画展で、多くの関係者に周知出来ればと思っております。

つきましては、愛媛県はじめ四国三県のご遺族の方がた、業界の方がた、小学校・中学校・高校の児童及び生徒の皆さんにご参加いただきたく希望しておりますので、特段のご高配をお願い申し上げます次第です。

謹白

戦時徴用船遭難の記録画展

戦没船員相談コーナーとビデオ放映

会場 愛媛県美術館 南館 県民ギャラリー 2
愛媛県松山市堀之内

期間 平成20年8月19日(火)～24日(日)
午前9時40分より午後6時まで
(最終日は午後3時まで)

入場無料

主催 財団法人 日本殉職船員顕彰会

後援

株式会社 商船三井
財団法人 日本海事広報協会



海岸にたどりつき、擱座炎上する本船を振り返る乗組員

南方海域図と遭難地点



相談コーナーとビデオ放映

画展期間中は、当会に保管されている戦没船員名簿等を持参し、ご遺族関係者のご相談にも対応いたします。
また、戦時徴用船壊滅記録ビデオを常時放映いたします。



大久保一郎画伯 略歴

明治22年 大阪に生まれる。幼時より好んで海や船舶を描く。

大正15年 大阪商船〔現(株)商船三井〕の嘱託。以後、同社竣工記念絵はがきやポスター、広報誌表紙などを数多く手がけ、生涯を船舶画にかける。

昭和51年没 享年86歳。

昭和57年3月 大阪の同社倉庫で30号油彩37点の絵を発見。わが国有数の絵画修復家、黒江光彦氏の手により修復された。

財団法人 日本殉職船員顕彰会

東京都千代田区麹町 4-5 海事センタービル TEL 03-3234-0662 FAX 03-3234-0682
E-MAIL kenshoukai@isis.ocn.ne.jp URL <http://www.kenshoukai.jp>

戦時徴用船遭難の記録画展

—大久保一郎画伯遺作—

慟哭の30号油彩37点、深い感動があります。



船尾楼に直撃弾を受けた本船



雷撃により火柱を上げる「慶興丸」
昭和17年11月8日、フィリピン方面にて、雷撃により沈没。



雷撃により水柱を上げる「護国丸」
昭和19年11月10日、基隆から呉に向け航行中、北緯33度31分、東経129度19分、古志岐島灯台15マイル沖で、雷撃により沈没。

ご挨拶

さきの大戦において、わが国の海運水産界は、6万余人におよぶ船員と商船をはじめ機帆船、漁船約7000隻、883万総トンを超える船舶を喪失しました。しかし、その実相を伝える資料は殆ど残されておりません。大阪商船の囑託、船舶画家大久保一郎氏(故人)は、当時の岡田社長から失われゆく船舶の記録を残すよう指示され、戦時中の厳しい軍機保護法下にあつて、生還乗組員の生々しい証言をもとに、戦時遭難船の記録画をひそかに描き残しました。これらの絵画は、戦後の混乱で、一時行方不明となりましたが、昭和57年、40年ぶりに30号の油彩画37点が発見、修復されました。

当会主催による「戦時徴用船遭難の記録画展」は、昨年までに全国33ヶ所で開催され、多くの遺族や一般の方々に徴用船乗組員の悲惨な実相を訴えてまいりました。

ここに謹んで戦没船員の霊を鎮め、海洋永遠の平和を祈り、記録画展を開催する次第であります。

財団法人 日本殉職船員顕彰会
会長 相浦 紀一郎

交通案内

〒790-0007 愛媛県松山市堀之内

- JR 松山駅下車、市内電車道後温泉または市駅前行 南堀端下車、徒歩 1 分
- 松山観光港よりバスで南堀端下車、徒歩 2 分
- 松山空港より車で約 20 分